

ロシア極東（環日本海）紀行

法学部政治学科 1年S組 箕浦量太郎（Константин）

はじめに

私は2019年11月16日から25日までの間、ロシア極東地域を周遊旅行して参りました。単なる観光となってしまう前年のサハリン旅行の反省もあり、半年間でロシア語を少し学習したことも踏まえて現地の人とコミュニケーションも取れ、また一人旅で身軽ということもあり日程の割に多くの都市を廻ったため、移動がメインとなり一般的な旅行とはかけ離れてしまった感がありますが、得ることができた体験を簡潔ではありますが読者の皆様に共有できればと思います。なお旅行の冒頭に立ち寄った韓国に関しては今回のイベントの趣旨と異なるため割愛させていただきます。



食事

移動図。上に日本列島、下にユーラシア大陸がある。青線は鉄道・船、赤線は航空機移動

貧乏旅行につきほとんどの食事をКафеかстоловаяでとったほか、店で買った黒パンや缶詰を宿や列車でいただきました。食事の写真について母親のリクエストがあったので結構な量を撮影しましたが如何せん撮影技術に乏しいため見づらかったり、途中まで撮影を忘れていた結果食べかけの写真になってしまったりと全体的にクオリティは低いためご了承をお願いします。一応全て完食いたしました。



ウラジヴォストクのお高めのカフェにて食べたボルシチ。具材のチョイスが工夫されておりその旨味からかなり美味しい。パンも最高



ピロピジャンの食堂にて。サラダは非常に塩辛く、ボルシチはビーツをケチっており、パンはカサカサ（これは他の低価格帯の店も同じであった）だが全部で300円以下と安いので仕方ない



コムソモリスクのカフェ。写真はココアとサラダで、この後メイン皿が来た。洒落た内装にふさわしく、値段は比較的高かった。



コムソモリスクのстоловаяにて。食べかけですみません。シャシリクが竹串に刺されたまま出てきたのでさながら日本の焼き鳥であった。



←コムソモリスクのショッピングモール内の寿司屋で購入。基本巻物だがもっとたくさん種類があり、一つずつ注文できるほかセット商品もある。



ヴァニノにある新しめのカフェ。ロシアの東の果てにアメリカなカフェがあるというのが面白い。若い客が大勢来ていた



こちらもヴァニノにあるカフェにて。右下はじゃがいものスープというが具が豊富で最早スープではなく肉じゃががシチューである。



帰りの便で配られた、「パサパサ」だと有名なオーロラ航空の機内食、サンドイッチ。チキンとベジタブルが選べる。どちらも空腹には美味しく感じた。

ヴァニノのホテルでの朝食。味付けに三口で飽きてしまった

便利な移動ツール

地味に自由化が進んでいるロシアには日本に見られない移動ツールがあります。実際に利用したものを中心に一部ご紹介します。

鉄道 (RZD/РЖД)

資源国であるロシアは交通インフラがの料金が非常に安い鉄道も例に漏れない。安い寝台だと場合によってはウラジオストクからモスクワまで一万円以下の移動が可能で、まさに「時は金なり」。

またチケットをインターネットで購入できるのはもちろん、残席数に応じて値段が変動したり、eチケット制でアプリをダウンロードするとチケットレスで乗車できるなどの点は某JRよりも先進的で使い勝手が良い。何より開放式寝台車で紅茶を淹れたスタカン（金属製の湯飲みホルダー）を手に他の乗客との交流ができるのが醍醐味。

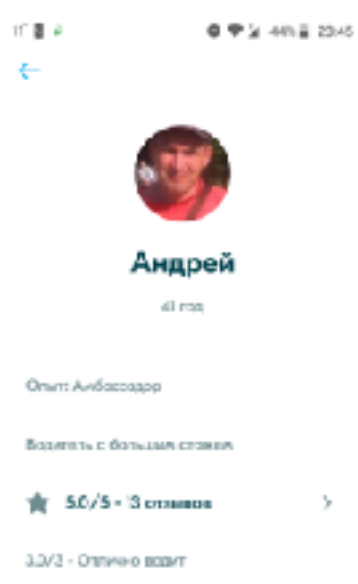
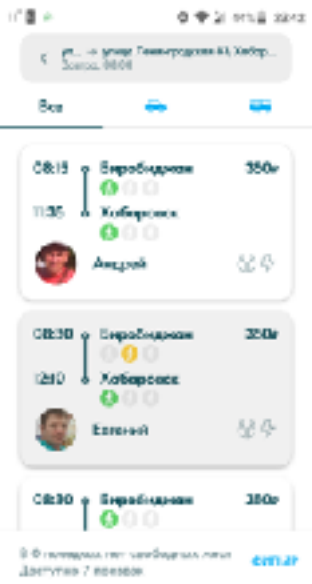


ビロビジャン駅のホームで、車内で知り合った韓国人青年に撮ってもらった

Blabla-Car

ヨーロッパで普及している相乗りアプリはロシアでもポピュラーで主に都市間移動で使われる。相乗りは日本人には抵抗感もありそうだがドライバーの評価システムなどもあり安全性はある程度担保されていると言えるかもしれない。

筆者はビロビジャン→ハバロフスクで利用したが最初はドライバーからかかってきた電話の対応がうまくできず失敗し、ドライバーの夫人が英語が通じ何とか意思疎通ができた2台目で成功した。上記の通りドライバーとの連絡に電話を使用することや、使用言語の変更ができない点から、中上級者向けである。乗車中はもう一人の乗客の婦人とSNSの交換をしたり、ドライバーと3人で雑談ができた（私はほとんど聞いているだけでしたが、）。下に添付した写真は実際に使った車ではなく後から撮った一例である。日本ではタクシー業界の保護のため相乗りが認められておらずダウンロードできないのでご注意ください。



- Могут работать, если есть настройки
- В машине не курить
- Звонит от плейлиста
- Ничего подтверждено
- 3% пеня подтверждена

↑車におけるコミュカ、タバコ、音楽の可否
←←←多くの運転手が募集をかけている中から選ぶ
←←ルートの詳細も分る
←ドライバーのステータス

Яндекс-Taxi

タクシー料金が交渉制であるロシアにおいて、距離に応じて事前に決められた料金で運ぶ運転手を配車するアプリ。何回か試したがいずれも車が近くにおらず、利用できなかった。

終わりに代えて

今回の旅行では、ほんとうに色々な方の方のお世話になったが、ときとして金目当てで近づいてくる者もあり（全て子供でしたが…）とうとう人間不信に陥ったこともあった。この世に性悪説と性善説が並立している理由を実感したが、最終的に自分が望むときだけ人助を頼ろう、そうすれば相手が見返りを求めてきてもそれ

は対価だ、と言うスタンスに落ち着いたが、さらぬだに多くの方にどこからか湧いてくる（おそらく）純粋な人助けの気持ちで優しく接していただいたのはとても嬉しかった。ウラジオストクの宿で日本語が話せる宿泊客の方に至れり尽くせりしていただいたり、飲み物の経験、ヴァニノのソ連式アパートに上がらせていただいてサイコロやカルタをしたり、ホルムスクからユジノサハリンスクまで車に乗せてもらったことなど、全てが大切な思い出である。具体的に書過ぎるのも粋ではないためこのくらいにさせていただくが、恩返しをしたいと思いますともなかなか難しいので日常を生きる中で周りの方々に返していきたいなどと考えていたが、実際のところ言うは易しである。

また極東ロシアにいて多少のロシア語が話せると多くの場合中国人と間違えられる。単純に違うことと、露国境・移民問題もあり「日本から来た」と言ったほうが相手のロシア人からの対応も良くなることもあるので、訂正していた。嫌でも（東アジアの中の）日本人としての自覚を持たされるわけだが、あるとき、それによって自分が「○国民」という極めて先天的なアイデンティティに依存して旅をしていることに気がついた。今まで器用貧乏に生きろくな特技を持っていないつけが回ってきたとも言えるが、いわゆる右翼思想を持つ人間と同等な見方になりかねぬ危険性を感じてものすごく悩んだ。

色々なことを考えさせられたため、たかだか一週間少々でも旅の効用は底知れない。

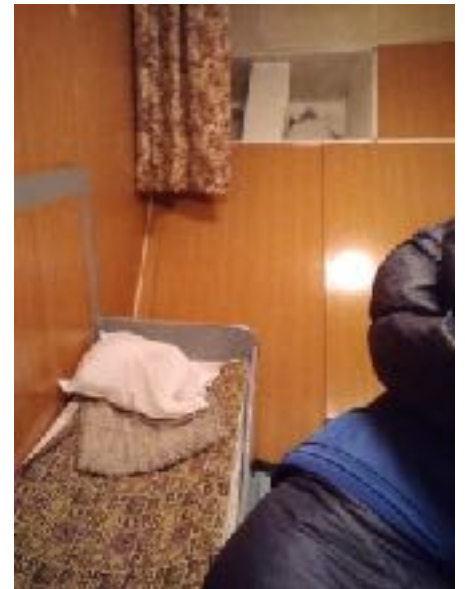
今回はウラジオやハバロフスクの観光地をほとんど見ていない（一方コムソモリスクはかなり充実した観光ができたが）ほか、農村部にはいけておらず、ロシアを語るにはまだまだ未熟であるため、次なる旅行への宿題とさせていただきたい。今後また時間とお金ができたりには一人でも誰か連れてでも再訪したいと思う。



コムソモリスクにて。水をバックパックの外に刺して持ち歩くといつの間にか凍りつく



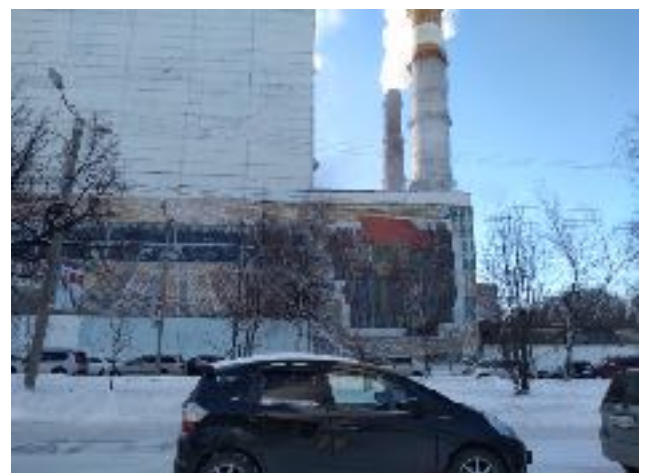
ウラジオストクのレーニン像。皆前方から撮りがちなので敢えて後ろ姿を撮影



ヴァニノとホルムスクを結ぶ連絡船の客室。船酔いをそそるカビのような匂いがした



急遽泊まったヴァニノ唯一のホテル。名前は「五つ星」だが設備は星1〜3レベルで¥1700から泊まれる。イタリアの某政党？ちなみに5つ星グループはハバロフスクへのバスも運行している多角企業のようなだ



コムソモリスクの造船工場。写真ではうまく伝わらないが、-10℃を下回る外気に冷却された煙は迫力がある